エンジンポンプ

取 扱 説 明 書

KCL-25/2M3(W)

KCL-25W

CL-25

CL-40

CL-50

CL-80

はじめに

このたびはエンジンポンプをお買い上げいただきありがとうございました。
このエンジンポンプを末永くご愛用いただくために、ご使用の前に必ずこの取扱説明書をよくお読みくださいますようお願いいたします。

※安全にお使いいただくために 必ずお読みの上、ご使用願います）

この取扱説明書には、使用に際して、特に重要な内容を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 のマークを使用して表現してあります。このマークは下記の意味を持ちます。

⚠危険 :守らないと、死傷又は重大な人身事故となる。
⚠警告 :守らないと、死傷又は重大な人身事故となる危険性がある。
⚠注意 :けがをする危険性があり、状況によっては、重大な結果に結びつく可能性がある。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守って下さい。
お読みになった後は、お使いになる方が、いつでも見られる所に必ず保管して下さい。
機械を他人に貸す場合、この取扱説明書も貸与し、安全上の注意を伝えて下さい。

※安全にお使いいただくために （エンジンについて）

⚠警告

作業前に、エンジンの取扱説明書を読み、内容を確認してから、使用のこと。

火災事故防止

・燃料・オイル補給時には、エンジンを止めること。
・燃料・オイル取扱い時には、火気を近づけないこと。

以上のことを守らない場合、燃料・オイルは非常に引火しやすく危険な液体なので、火災の原因になります。

感電事故防止

・エンジンのプラグ周辺には触れないこと。

電気ショックを受け感電事故の原因となります。

排気ガス事故防止

・換気の良いところで使用のこと。

排気ガスには、有害な成分が含まれており、死亡事故の原因になります。

やけど事故防止

・マフラー・エンジン本体は、運転中はもとより、停止後もしばらくは触れないこと。

この部分は高温になるので、やけど事故の原因になります。

【注意】 ・ガソリンは変質します。
長期保管時、この特質が各所に悪影響を及ぼし、機械不具合の原因となります。
取り扱い、保管は、エンジンの取扱説明書の内容を守って下さい。）
・出力は推奨する定格範囲内でご使用願います。
最大出力で、連続運転はできません。機械に対する負担が大きすぎる為、
破損してしまいます。）
・4サイクルエンジンは、使用前にオイルを給油して下さい。
又、オイルは定期的に補給して下さい。

※安全にお使いいただくために（エンジンポンプについて）

⚠ 注意

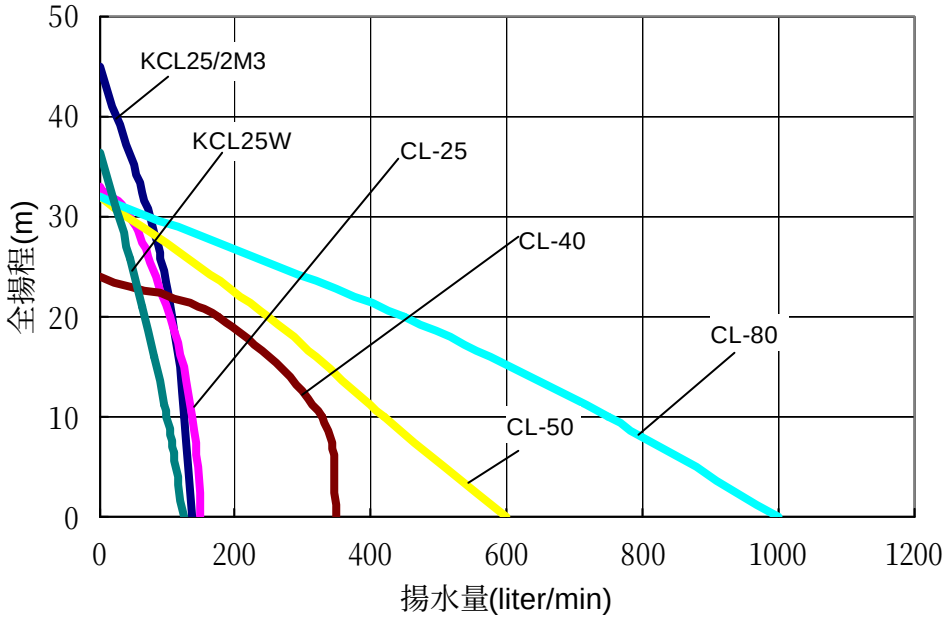
・作業前に、エンジンポンプの取扱説明書本文を読み、内容を認識してから 使用のこと。
・このポンプの使用目的は 水」に限定します。
・各部の穴に、手や物を入れないこと。
これらが巻き込まれた場合、けがの原因となります。
・運転時は、吐水ホースの先端を必ず固定すること。
噴き出す水の勢いで吐水ホースが動き回り、けがの原因となります。
・運転時、呼び水プラグと水抜きプラグは、しっかり締付けて使用のこと。
これらの締付けがゆるい場合、プラグが飛び出しけがの原因となります。
・使用後は、子供の手の届かない場所に保管して下さい。

【注意】 ・この機械に貼りつけたラベルが、汚れた場合 ・はがれた場合、新しいものを入手して
貼り変えて下さい。
・水の吸込口のストレーナーは目詰まりなきよう清掃して下さい。
・運転前に、ボルト・ナット ネジ類等のゆるみがないかを調べ、ゆるんでいれば締め
付けて下さい。
・吐水ホース側に設けるバルブを急激にふさがないで下さい。
また、吐水ホースは、通過車両に踏みつけられない位置に設置して下さい。
ホースをタイヤが踏みつぶすことで、吐水側を急激にふさいだことになり、
ポンプ内の圧力が異常に高まり、ポンプが破損する原因になります。

1. 仕　様

Model	KCL-252M3(W)	KCL-25W	CL-25	CL-40	CL-50	CL-80
口　　径 mm	25×25	25×25	25×25	40×40	50×50	80×80
最大全揚程　m	45	35	33	24	32	32
最大吸水揚程 m	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
最大揚水量 l/min	130	115	130	350	600	1000
エンジン　三菱重工	TL33 1.3kW/7000min^{-1}	TU26 1.03kW/7500min^{-1}	GM82 1.8kW/3600min^{-1}	GM82 1.8kW/3600min^{-1}	GM132 2.8kW/3600min^{-1}	GM182 4.5kW/3600min^{-1}
外径寸法（長・巾・高）mm	300×235×305	315×225×340	384×294×354	378×294×354	502×356×427	539×368×455
重　　量 kg	8.0	4.5	16.0	16.0	23.0	33.0

2. 性 能 曲 線



3. 運 転 準 備

1. 燃料

⑴ 燃料の選定

2サイクルエンジン・・・混合ガソリンをご使用下さい。

無鉛ガソリン 25 に対して 2 サイクル専用オイル 1 の割合で
混合した燃料をご使用下さい。

4サイクルエンジン・・・レギュラーガソリンをご使用下さい。

⑵ 燃料の注入

燃料タンクに燃料を入れて下さい。

警告 エンジンの始動は、給油場所から3m 以上離れた場所で行って下さい。

注意 危険ですのでエンジン運転中に燃料を入れないで下さい。

2. エンジンオイル (4サイクルエンジン)

⑴ エンジンオイルが入っているかチェックして下さい。

⑵ エンジンを水平にして正規油面まで補給して下さい。

※エンジンオイルは消費されますので、始動前に正規給油面までオイルが入っているか必ず確認して下さい。

気 温 ℃	オイル粘度 SAE
30	＃40
15	＃30
0	＃20

3. 自吸水

⑴ ポンプケーシングが一杯になるまで呼び水をして下さい。

注意 呼び水なしでの運転は避けて下さい。
故障の原因となります。

4. 吸水ホース・吐水ホースの操作

⑴ 吸水ホースをポンプ吸水口に確実に取り付けて下さい。

⑵ 吐水ホースをポンプ吐水口に確実に取り付けて下さい。

注意 吸水ホースの先端に必ずストレーナーを取り付けて下さい。吸水側の各接続部から空気もれのない様、確実に締め付けて下さい。

4. 始 動

1. エンジン燃料コックレバーをOPENの位置にします。
2. 調節レバーをSTARTの位置にします。
3. チョークレバー操作

⑴ エンジンが冷えている時 :チョークレバーを冬期は全閉、夏期は 1/2 の位置にします。

⑵ 一度暖まったエンジンを再始動するとき :チョークレバーを全開のまま始動します。

4. 始動 (リコイルスターター)

⑴ スターターロープを圧縮のところまで軽く引き一旦戻してから勢いよく引っ張って下さい。
エンジンが始動するまでそれを繰り返して下さい。

5. 運 転

警告　運転は、火気のない換気の良い場所で行って下さい。ガソリンに引火したり、エンジンの排気ガスにより死に至る事故の原因となります。

1. 3～5分暖機運転をして下さい。
2. エンジンが暖まりましたら、調整レバーを操作して、作業に必要な回転数のところでレバーを固定します。

注意　作業中に吐出ホースを曲げたり、踏んだり、吐出口をふさいだりしないで下さい。吐出の圧力によりホースがはずれたり、ポンプ故障の原因となります。

6. 停 止

注意　作業の停止は、必ずエンジンの停止にて行って下さい。ポンプの故障の原因となります。

1. 作業の一時停止

⑴調整レバーを一番下まで下げてからしばらく低速で運転し、停止スイッチを切ります。

2. 長時間停止

⑴長い時間使用しない時は、停止ボタンを押さずに燃料コックを閉じます。気化器の中の燃料がなくなるまでまわります（2～3分）が、しばらくすると停止します。

注意　運転中は勿論、エンジン停止後もしばらくの間は、エンジン部には手を触れないで下さい。火傷や感電の恐れがあります。

7. ポンプの手入れ

1. 毎日の点検

⑴ ボルト・ナット・ネジ類等のゆるみがないか調べます。
⑵ 燃料及び潤滑油のもれがないか調べます。

2. 100～150時間毎の手入れ

⑴ ケーシングを取り外して内部を水で洗い清掃して下さい。（必要に応じて）
⑵ エンジンの潤滑油をエンジンの暖かいうちに交換します。
⑶ エアークリーナーのふたを外してスポンジを取り出し、ガソリンで洗浄後よくしぼり、エンジンオイルに浸し固くしぼって使用して下さい。
⑷ スパークプラグを取り外して清掃し、すきまを0.6～0.7mmに調整します。（必要に応じて）
⑸ ボルト・ナット・ネジ類等の増し締めを行います。

8. 使用しない時の保管方法

1. ポンプのドレンプラグからポンプ内の水を完全に抜き取ります。

⚠ 注意　特に冬期は、ケーシング内の水が凍結し、故障の原因となりますので、必ずポンプ内の水は抜いて下さい。

2. 燃料タンク及び気化器から燃料を完全に抜き取ります。

⚠ 注意　ガソリンは腐食しますので、キャブレターの目づまりを起こし、エンジンの不調の原因となります。

3. 湿気や砂・塵埃等の少ない場所にカバーで覆って保管して下さい。

9. トラブルシューティング

ポンプが揚水しない場合	対策
①自吸水が不足している	呼び水を追加
②回転が遅い	エンジン回転を上げる
③ストレーナーが詰まっている	きれいに清掃する
④吸水ホースが破れている	取り換える
⑤吸水ホースの接続部から空気漏れ	さらに強く締め付ける
⑥極端な吸水揚程	適切な位置に直す
⑦ポンプ内のゴミ、異物等による循環水不足	ポンプ内を洗浄し、呼び水を入れる
⑧ゴム・パッキン類の劣化及び破損	交換する

メモ